

# 自動車輸送統計調査(全数バス調査) における欠測値補完手法について

---

国土交通省 総合政策局  
情報政策課 交通経済統計調査室  
令和4年5月

# 自動車輸送統計調査の概要

【令和3年12月8日承認】

## 調査の目的等

自動車輸送統計（自動車による貨物及び旅客の輸送の実態を明らかにすることを目的とする基幹統計）を作成し、我が国の経済政策及び交通政策を策定するための基礎資料を得るため、昭和35年から、毎月調査として実施。

## 調査の概要

登録自動車（道路運送車両法第4条）及び軽自動車（道路運送車両法第60条）並びに一般乗合・一般貸切・特定旅客自動車運送事業（道路運送法第3条）を営む事業所のうち、国土交通大臣が選定する自動車及び事業所。

調査対象範囲・対象数・調査事項

区分	様式	属性	調査対象数	選定方法	調査事項
貨物営業用自動車(トラック)	第1号様式	自動車	1,4,7及び10月 約9,800両 上記以外の月 約4,900両	無作為抽出	自動車の種類、最大積載量、輸送回数、輸送区間、走行距離、輸送貨物の品目及び重量、休車日数 等
貨物自家用自動車(トラック)	第2号様式	自動車	約9,700両	無作為抽出	〃
旅客営業用自動車(バス)	<b>第3号様式 (全数調査)</b>	<b>事業所</b>	<b>約4,400事業所</b>	<b>全数調査</b>	<b>自動車の種類、乗車定員、輸送回数、輸送区間、走行距離、輸送人員、休車日数 等</b>
	第3号様式の2 (一般・高速)	自動車	約1,000両	無作為抽出	輸送人員、走行距離、運行回数、保有車両数 等
	第3号様式の3 (貸切)	自動車	約900両	無作為抽出	〃
旅客営業用自動車(タクシー)	第4号様式 (乗用)	自動車	約500両	無作為抽出	乗車定員、輸送回数、輸送区間、走行距離、輸送人員、休車日数 等

調査方法等

【調査系統】 国土交通省－民間事業者－報告者  
 【調査方法】 郵送・オンライン  
 【調査の周期】 毎月  
 【調査票の提出期限】 調査期間満了の15日後

結果公表

- ・自動車輸送統計速報は、調査月経過後 2 か月以内に公表
- ・自動車輸送統計月報は、速報公表後速やかに公表
- ・自動車輸送統計年報は、調査年度経過後 6 か月以内に公表

全数バス調査（全数調査）の欠測値補完の手法については、「平成28年度統計法施行状況報告 統計精度検査編」及び「平成28年度統計法施行状況に関する審議結果報告書（統計精度検査関連分）」において、「過去の回答結果を使用した単一補完を実施する場合の使用データの期限のないもの」として整理され、「データの使用期限も含めて検証を行うことが必要」との指摘を受けた。

平成28年度統計法施行状況に関する審議結果報告書  
（平成30年3月28日統計委員会決定）（抜粋）

- 3 事業所及び企業を対象とする基幹統計調査における欠測値及び外れ値に関する原則的な対応の確認及び整理
- ⑥ 過去の回答結果を使用した単一補完を実施する場合の使用データの期限のないもの
  - イ) 国土交通省所管調査  
自動車輸送統計調査（バス関連調査）では、以下⑦でも示しているとおりに第Ⅲ期基本計画において自動車輸送統計調査そのものの見直しが指摘されていることから、当該見直しと整合するよう並行して、データの使用期限も含めて検証を行うことが必要である。

これを受け、平成29年度に新たな補完手法について検討を行い、その結果について、統計委員会サービス統計・企業統計部会（R1.8）及び統計委員会評価分科会（R2.1）に報告をしたが、双方の説明内容に一部違いが生じていたことが判明した。

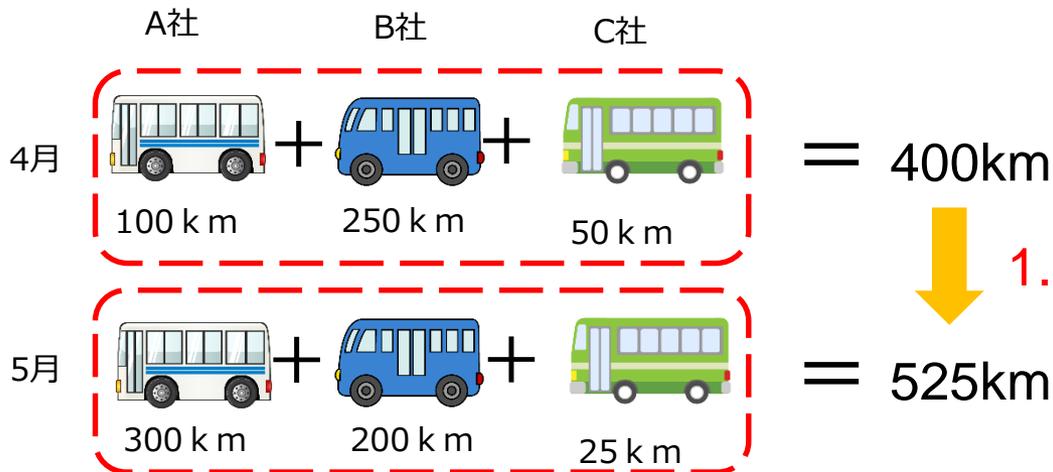
令和2年4月分調査より実際に採用している手法は統計委員会サービス統計・企業統計部会に説明した手法（以下、「ロジックA」という。）であり、統計委員会評価分科会に説明した手法（以下、「ロジックB」という。）との相違点は以下のとおりである。

# 説明内容の相違点

	ロジックA【 <b>現行手法</b> 】 (サービス統計・企業統計部会)	ロジックB (評価分科会)																									
層区分	<p>用途別、地方運輸局別、実在車両数別に層区分を設定。</p> <p>【用いる層区分①（用途、地方運輸局）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用途</td> <td>乗合（一般・高速）、貸切、特定</td> </tr> <tr> <td>地方運輸局</td> <td>北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、九州</td> </tr> </tbody> </table>	区分	分類	用途	乗合（一般・高速）、貸切、特定	地方運輸局	北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、九州	<p>【用いる層区分②（実在車両数）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th colspan="3">事業所カバー率（目安）</th> </tr> <tr> <th>50%未満</th> <th>50～80%</th> <th>80～100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗合バス</td> <td>10台未満</td> <td>10～80台未満</td> <td>80台以上</td> </tr> <tr> <td>貸切バス</td> <td>5台未満</td> <td>5～15台未満</td> <td>15台以上</td> </tr> <tr> <td>特定バス</td> <td>5台未満</td> <td>5～15台未満</td> <td>15台以上</td> </tr> </tbody> </table>	用途	事業所カバー率（目安）			50%未満	50～80%	80～100%	乗合バス	10台未満	10～80台未満	80台以上	貸切バス	5台未満	5～15台未満	15台以上	特定バス	5台未満	5～15台未満	15台以上
区分	分類																										
用途	乗合（一般・高速）、貸切、特定																										
地方運輸局	北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、九州																										
用途	事業所カバー率（目安）																										
	50%未満	50～80%	80～100%																								
乗合バス	10台未満	10～80台未満	80台以上																								
貸切バス	5台未満	5～15台未満	15台以上																								
特定バス	5台未満	5～15台未満	15台以上																								
	<div style="border: 1px dashed blue; padding: 10px;"> <p>○層分けの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公表時の集計区分と合致することを前提とした上で、さらなる細分化を検討</li> <li>旅客輸送の特徴として影響を与える地域と事業規模を代表する指標をそれぞれ検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>（地域）：サンプル数確保の観点から、既存の公表資料で用いている「地方運輸局」を採用</li> <li>（事業規模）：変動が少なく安定した推移を示す「実在車両数」を採用</li> </ul> </li> </ul> <p>⇒各層で十分なサンプル数を確保できることが確認された。</p> </div>																										
補完手法	<p>欠測している事業所と<u>同一層の事業所の合計値の前月比</u>を算出し、<u>当該前月比</u>を欠測している事業所の前月実績に乗じて推計。</p>	<p>欠測している事業所と<u>同一層の各事業所の前月比</u>を算出し、<u>当該前月比の平均値</u>を欠測している事業所の前月実績に乗じて推計。</p>																									
メリット	<p>○過去1ヶ月分のデータ蓄積で補完が可能となるため、1年以内に開業した等で過去のデータ蓄積が十分でない場合にも適用可能。</p> <p>○国内景気等のトレンドや、イベント等による急激な需要変動を反映できる。</p>																										
連続補完する場合のデータの使用期限	<p>——</p>	<p>連続補完を行った場合の<u>データの使用期限は、最大12ヶ月を目処</u>とする。 (乗合・特定バス：12ヶ月、貸切バス：6ヶ月)</p>																									

# ロジックA・ロジックB図式 (参考)

## ロジックA (サービス統計・企業統計部会)

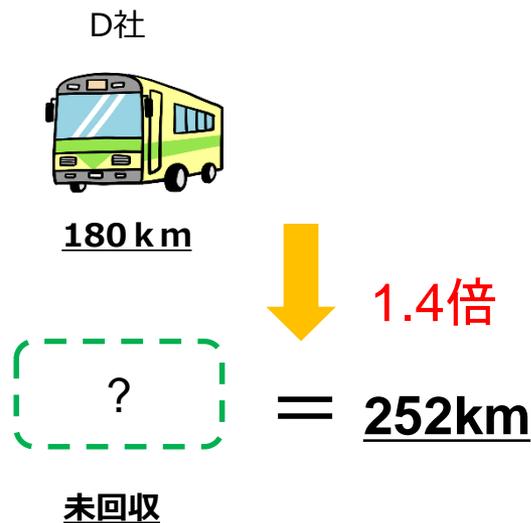
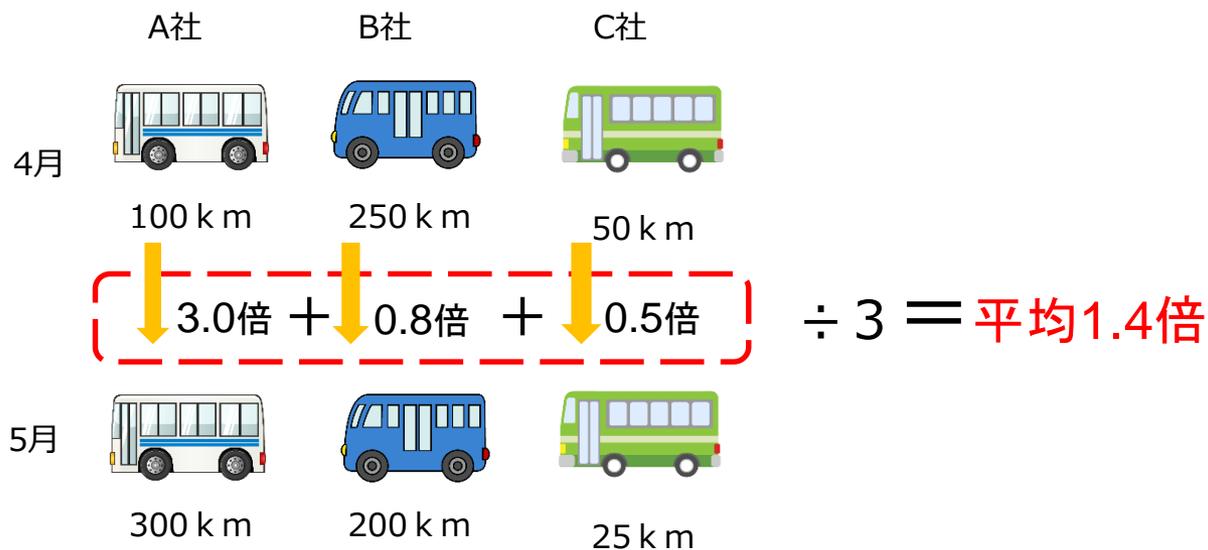


事業所の合計値の前月比を使用



## ロジックB (評価分科会)

各事業所の前月比の平均を使用



# ロジックA・ロジックBの比較検証

各手法の比較検証は、平成31年3月～令和2年3月（13ヶ月）の全ての月に提出のあった事業所の調査結果（実績値）を用いて、各手法による推計誤差率（推計値÷実績値）及びRMSE（二乗平均平方根誤差）により行った。

$$\text{推計誤差率(ロジックA)} = \frac{\text{推計値}}{\text{実績値}} = \frac{\text{未提出と仮定した事業所の前月の値} \times \text{同一層の他の事業所の合計値の前月比}}{\text{未提出と仮定した事業所の実績値}}$$

$$\text{推計誤差率(ロジックB)} = \frac{\text{推計値}}{\text{実績値}} = \frac{\text{未提出と仮定した事業所の前月の値} \times \text{同一層の他の各事業所の前月比の平均}}{\text{未提出と仮定した事業所の実績値}}$$

$$RMSE = \sqrt{\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N (y_i - \bar{y}_i)^2} \quad (N: \text{標本数} \quad y_i: \text{推計値} \quad \bar{y}_i: \text{実績値})$$

推計値の算出は、平成31年3月分の調査結果をもとに、同年4月分の全ての調査結果について、1事業所ずつ欠測したと仮定し、ロジックごとに推計した。同年5月分の推計値についても同年4月分の調査結果をもとに推計値を算出し、これを各月分（12ヶ月分）行った。

## ロジックA（サービス統計・企業統計部会）

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.93	1.00	1.07	1.08	96,239
延実働日車	0.97	1.00	1.02	1.03	148
実車キロ	0.97	1.00	1.03	1.03	32,180
延運行回数	0.97	1.00	1.03	1.03	3,990

## ロジックB（評価分科会）

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.93	1.00	1.07	1.07	122,140
延実働日車	0.98	1.00	1.02	1.02	158
実車キロ	0.98	1.00	1.03	1.02	38,262
延運行回数	0.98	1.00	1.03	1.02	4,177

# ロジックA・ロジックBの比較検証

## ロジックA（サービス統計・企業統計部会）

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.81	1.01	1.49	1.28	4,353
延実働日車	0.85	1.00	1.25	1.21	54
実車キロ	0.80	1.01	1.54	1.28	11,055
延運行回数	0.84	1.01	1.37	1.25	286

## ロジックB（評価分科会）

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.82	1.03	1.42	1.31	5,640
延実働日車	0.85	1.01	1.24	1.22	56
実車キロ	0.82	1.04	1.54	1.32	11,767
延運行回数	0.84	1.02	1.30	1.25	357

貸切

特定

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.88	1.00	1.72	1.14	14,739
延実働日車	0.92	1.00	1.21	1.10	120
実車キロ	0.90	1.00	1.43	1.12	7,982
延運行回数	0.91	1.00	1.30	1.11	671

属性	推計誤差率				推計誤差
	第1四分位	中央値	平均値	第3四分位	RMSE
輸送人員	0.89	1.00	1.49	1.13	22,470
延実働日車	0.91	1.00	1.20	1.08	149
実車キロ	0.90	1.00	1.41	1.11	12,710
延運行回数	0.91	1.00	1.25	1.10	968

## 検証結果

- 第1四分位～第3四分位の幅はロジックA・ロジックBで同程度
- RMSE（二乗平均平方根誤差）はロジックAの方が小さい

上記検証結果より、ロジックAの方が推計誤差がより小さいことから、**ロジックAの手法が適切**であると考えます。

本調査は全数調査であり、行政記録情報に基づく毎年の母集団名簿の整備により、事業所の改廃等を適切に把握していることから、存在が確認できている事業所の欠測値については、既存データを活用して補完を行うことが望ましい。

そのため、引き続き**ロジックAにより欠測値補完を実施することとする。**

# 連続補完によるデータの使用期限の検証

連続補完によるデータの使用期限の検証は、欠測値補完手法において適切と判断したロジックAにより行った。

検証は、平成30年3月～令和2年3月（25ヶ月）の全ての月に提出のあった事業所の調査結果（実績値）を用いて、平成30年度及び令和元年度の各年度それぞれにおいて、12ヶ月連続で補完を行った場合の推計誤差率（推計値÷実績値）の平均値を算出し行った。

なお、欠測率は、25ヶ月の調査期間における各用途の欠測率の最大値を使用した。

推計誤差率の算出は、以下のとおり。

## 【平成30年度の場合】

- ①平成30年3月の調査結果をもとに、同年4月分の全ての調査結果について、1事業所ずつ欠測したと仮定し、全ての事業所の推計値を算出
- ②当該推計値をそれぞれの事業所の調査結果で割ることで推計誤差率を算出し、4月分の推計誤差率の平均値を算出
- ③5月分の推計値の算出においては、4月分で算出した推計値を用いて、5月分の全ての調査結果について、1事業所ずつ欠測したと仮定し、連続で補完した場合の推計値、推計誤差率、平均値を算出
- ④当該方法により12ヶ月分の連続補完した場合の推計誤差率の平均値を算出
- ⑤各月の推計誤差率の平均値の伸び率に、上記25ヶ月の調査期間における各用途の欠測率の最大値を乗じて、各用途の欠測率における推計誤差率の平均値を算出

# 連続補完によるデータの使用期限の検証

## 乗合（欠測率17.1%）

 H  
3  
0

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員	平均値	1.01	1.01	1.01	1.02	1.03	1.01	1.02	1.01	1.01	1.02	1.01	1.01
実車キ口	平均値	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.02	1.01	1.01
延運行回数	平均値	1.01	1.00	1.01	1.01	1.02	1.01	1.02	1.01	1.01	1.02	1.01	1.01

 R  
1

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月(※)
輸送人員	平均値	1.01	1.01	1.01	1.01	1.03	1.01	1.02	1.01	1.01	1.03	1.03	1.18
実車キ口	平均値	1.00	1.01	1.01	1.00	1.02	1.01	1.01	1.01	1.01	1.04	1.03	1.03
延運行回数	平均値	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.02	1.01	1.02	1.05	1.04	1.03

## 貸切（欠測率20.1%）

 H  
3  
0

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員	平均値	1.03	1.03	1.03	1.06	1.19	1.08	1.05	1.12	2.70	1.42	1.23	1.11
実車キ口	平均値	1.04	1.03	1.05	1.03	1.06	1.05	1.06	1.16	1.11	1.08	1.14	1.06
延運行回数	平均値	1.04	1.03	1.03	1.03	1.07	1.05	1.07	1.05	1.16	1.15	1.09	1.06

 R  
1

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月(※)
輸送人員	平均値	1.06	1.05	1.05	1.05	1.08	1.10	1.05	1.07	1.14	1.12	1.21	2.20
実車キ口	平均値	1.09	1.16	1.06	1.07	1.18	1.12	1.09	1.09	1.15	1.17	1.20	2.01
延運行回数	平均値	1.07	1.10	1.05	1.06	1.14	1.09	1.06	1.08	1.14	1.13	1.17	1.79

## 特定（欠測率13.9%）

 H  
3  
0

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員	平均値	1.02	1.02	1.02	1.03	1.17	1.02	1.02	1.02	1.03	1.03	1.02	1.02
実車キ口	平均値	1.02	1.01	1.02	1.03	1.21	1.02	1.11	1.02	1.02	1.03	1.02	1.03
延運行回数	平均値	1.02	1.01	1.01	1.02	1.13	1.02	1.01	1.01	1.03	1.03	1.01	1.01

 R  
1

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月(※)
輸送人員	平均値	1.06	1.07	1.08	1.12	1.22	1.08	1.09	1.10	1.11	1.10	1.20	2.03
実車キ口	平均値	1.03	1.04	1.04	1.06	1.20	1.05	1.07	1.05	1.07	1.06	1.09	1.57
延運行回数	平均値	1.03	1.03	1.03	1.06	1.17	1.04	1.04	1.04	1.05	1.05	1.05	1.38

※令和2年3月は、新型コロナウイルスの影響により数値にバラツキが生じている。

# 連続補完によるデータの使用期限の検証

## 検証結果

- 25ヶ月の調査期間における最大の欠測率で1年間連続補完したとしても、各年度とも大幅な精度低下は見られない。
- 令和2年度における平均欠測率は、乗合9.0%、貸切11.4%、特定7.6%であり、検証で使用した欠測率よりも小さい割合であることから、実際の推計誤差率はより小さくなることが想定される。
- 検証に用いた欠測率は同じ事業所が連続して欠測することが前提となるが、実際には欠測となる標本が入れ替わることから、誤差はより小さくなることが想定される。
- 調査票の回収率は80%以上であり、欠測値補完による推計値が統計の集計値に与える影響は小さい。

上記を踏まえ、輸送実績を適切に捉えるため、連続補完によるデータの使用期限は定めず、前年同期を超えた場合も引き続きロジックAの手法による欠測値補完を行うこととする。

ただし、連続補完を行うにあたっては、一層の督促の強化、より適切な母集団の把握（毎年の母集団名簿の整備に加え、毎月の調査時に把握した廃業・実質廃業情報を速やかに反映）を行い、補完対象を減らすとともに、連続補完の期間が短くなるよう努めることとする。

第92回サービス統計・企業統計部会  
国土交通省説明資料（抜粋）

(a) 変更計画どおりの月報公表を担保するため、どのような対応を行う予定か。

【旅客営業用バス】

バス事業所に対してヒアリングを行った結果、ほぼ全ての事業所において、調査票作成の負担感はないものの、調査票の作成が可能となる時期が調査月翌月の15日～20日以降となり、調査月終了後45日以内に全ての事業所から調査票を回収することは困難であることから、変更計画案どおりの月報（速報）公表を行うため、調査票の未回収事業所分に係る代替推計の手法を検討しました。

検討にあたっては、調査対象事業所を用途別運輸局別保有車両数別に区分し、区分毎に提出のあった事業所の輸送量の合計について前月比を算出し、未提出事業所の前月の輸送量に前述の前月比を乗じる手法により、過去3年分のシミュレーションを行った結果、確報値と比較したところ大きな差異は見られなかったため、当該手法を用いることにより、変更計画案どおり2か月以内に月報（速報）の公表を行うことが可能であると考えます。

また、旅客営業用バスにおける事業所調査は全数調査のため、当該手法は、月報（確報）の公表にあたって未提出事業所の欠測値の補完処理としても活用することとしています。

## 第5回評価分科会「自動車輸送統計調査における欠測値補完に関する取組等について」(抜粋)

### 検討手法③ (層別前月比法) (新手法)

用途別、地方運輸局別、実在車両数別に層区分を設定し、欠測している事業所と同一層の調査項目ごとの前月比の平均値を乗じて推計する。

#### 【用いる層区分① (用途、地方運輸局)】

区分	分類
用途	乗合 (一般・高速)、貸切、特定
地方運輸局	北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、九州

#### 【用いる層区分② (実在車両数)】

用途	事業所カバー率 (目安)		
	50%未満	50~80%	80~100%
乗合バス	10台未満	10~80台未満	80台以上
貸切バス	5台未満	5~15台未満	15台以上
特定バス	5台未満	5~15台未満	15台以上

#### 【推計の対象となる調査項目】

乗合バス	貸切バス	特定バス
輸送人員 (計)	輸送人員	輸送人員
輸送人員 (定期)	-	-
輸送人員 (定期外)	-	-
延実在日車	延実在日車	延実在日車
延実働日車	延実働日車	延実働日車
総走行キロ	総走行キロ	総走行キロ
実車キロ	実車キロ	実車キロ
延運行回数	延運行回数	延運行回数

(例) 輸送人員の欠測値補完

推計値 = 未提出事業所の前月の輸送人員 × 当該月に提出のあった同一層の輸送人員前月比

#### メリット

- 現行手法と同等程度の推計精度。
- 1年以内に開業した事業所等の過去のデータ蓄積が十分でない場合にも適用可能。
- 国内景気の浮揚や訪日外国人の増加といった直近のトレンドや、オリンピック等による急激な需要変動を反映できる。

#### 連続補完する場合のデータ使用期限

連続補完を行った場合のデータ使用期限は最大12ヶ月を目処とする。

- 乗合バス： 12ヶ月
- 貸切バス： 6ヶ月
- 特定バス： 12ヶ月

※検証方法はP10,11参照

上述のとおり、いずれの検討手法についても現行手法と同等程度の推計結果となった。そのため、直近の過去データの蓄積のみで対応可能であり、かつ、イベントなどによる急激な需要変動を反映させることができる「検討手法③」を採用することとした。

# 評価分科会 説明資料(参考)

## 検証方法 (連続補完)

25ヶ月すべての月の自動車輸送統計(全数バス調査)調査票を提出した全事業所の調査結果を用いて、当該事業所が後半12月分の数値を欠測していると仮定し、それぞれの手法による補完を12ヶ月連続で行い、推計値と実績値の比較を行った。

	前年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A事業所 (実績値)	9,500	10,000	12,000	10,000	8,000	9,500	8,000	5,000	8,000	9,000	7,000	8,000	9,000

すべて欠測として扱う。



現行 手法	前年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A事業所 (推計値)	9,500	11,000	9600	9,500	7,200	9,900	8,800	5,400	7,200	9,900	6,650	8,800	9,000
推計誤差率 (推計値÷ 実績値)	-	1.10	0.80	0.95	0.90	1.10	1.10	0.9	0.9	1.10	0.95	1.10	1.00

■  
■  
■

検討 手法③	前年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A事業所 (推計値)	9,500	9,000	14,400	10,500	8,800	8,200	8,400	6,900	7,600	8,100	5,950	9,200	9,900
推計誤差率 (推計値÷ 実績値)	-	0.90	1.20	1.05	1.10	0.90	1.05	1.15	0.95	0.90	0.85	1.15	1.10

# 評価分科会 説明資料(参考)

## 層別前月比法を用いての連続補完の検証結果

4月～翌年3月に亘って連続補完した場合の推計誤差分布は下表のとおり。

表1 層別前月比法の連続補完による乗合バスの推計精度(平成28年)(抜粋)

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員_計	最小値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.26	0.18	0.16	0.26
	第1四分位	0.90	0.92	0.90	0.93	0.92	0.93	0.92	0.93	0.95	0.93	0.94	0.97
	中央値	1.00	1.01	1.00	1.01	1.02	1.02	1.03	1.03	1.03	1.02	1.02	1.04
	平均値	1.07	1.09	1.10	1.10	1.14	1.08	1.11	1.11	1.11	1.12	1.13	1.08
	第3四分位	1.12	1.14	1.15	1.14	1.16	1.13	1.17	1.15	1.15	1.16	1.16	1.13
	最大値	16.84	18.65	17.83	17.47	18.11	12.95	13.87	19.15	17.13	16.99	19.10	17.04

表2 層別前月比法の連続補完による貸切バスの推計精度(平成28年)(抜粋)

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員	最小値	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	第1四分位	0.84	0.80	0.82	0.84	0.88	0.92	0.91	0.96	1.03	1.03	1.08	1.16
	中央値	1.07	1.13	1.14	1.16	1.19	1.25	1.33	1.34	1.39	1.45	1.50	1.58
	平均値	1.40	1.43	1.53	1.81	1.71	1.84	2.20	2.35	2.61	2.62	2.59	2.04
	第3四分位	1.34	1.48	1.51	1.57	1.63	1.76	1.91	1.89	2.00	2.15	2.16	2.22
	最大値	210.79	218.85	303.11	1,040.54	316.00	462.06	1,427.89	1,389.88	1,918.50	1,568.00	1,465.00	43.87

表3 層別前月比法の連続補完による特定バスの推計精度(平成28年)(抜粋)

調査項目	指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸送人員	最小値	0.05	0.05	0.04	0.10	0.14	0.04	0.03	0.04	0.08	0.05	0.09	0.26
	第1四分位	0.86	0.81	0.81	0.88	0.70	1.14	1.05	1.10	1.18	1.15	1.20	1.26
	中央値	1.06	1.11	1.13	1.09	0.92	1.54	1.50	1.57	1.50	1.49	1.50	1.55
	平均値	1.13	1.15	1.15	1.15	2.79	1.71	1.75	1.80	1.77	1.87	1.90	1.95
	第3四分位	1.26	1.32	1.32	1.30	1.68	2.22	2.20	2.31	2.16	2.18	2.26	2.14
	最大値	4.37	7.00	3.62	3.89	176.00	4.62	6.97	9.20	7.96	10.58	10.75	15.09

※赤：±80%以上、黄：±50%～80%、緑：±30%～50%